

どんびま

2008年9月12日発行
発行者 椈の湖農業小学校

おことわり

ゲリラ豪雨をもたらした前線のさった後は良いお天気が続いて、坂下でも稲刈り作業が進んでいます。ほとんどがコンバインでの収穫、カントリーでの調整・保管に変わってきましたが、どうしても自分が作った米が食べたい人は旧施設のライスセンターで調整をしてもらいます。中には機械乾燥を嫌って稲架(はざ)かけにこだわっている人もあります。

さて、用地を借りている椈の湖自然公園のイベント「そばの花まつり」が20・21日に開催されることとなったため、今月の授業日を

9月23日(秋分の日)

に変更することになりました。急な変更で申し訳ありませんがよろしくお願いいたします。

9月授業日案内

- 日程 9月23日(火)
受付 8:30~ 9:00
はじめの会 9:00~ 9:15
授業 9:15~12:00
(栗拾い・畑仕事)

栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。

栗は有料です。時価で精算して頂きます。

- 昼食 12:00~13:00
- 授業 13:00~15:00
(稲刈り・バケツ稲品評会)
- 終りの会 15:00~15:30

●締め切り 9月18日(厳守)

●問い合わせ・緊急連絡

Tel0573-75-4417・090-5110-9362 FAX75-4418 (山内總太郎)
Tel0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ



エノコログサ(イネ科)穂の形が子犬(イヌッコ)の尻尾に似ていることから名付けられたのだろうか。一般には、ネコジャラシの呼名で馴染まれている。実際この穂を子猫の前にちらかせると、猫はたちまちじゃれついてくる。

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、
着替え 買い物 食器、箸

☆バケツ稲を持参してください。

品評会をしますので、必ずお持ち下さい。
バケツごと持ってこられない方は、刈って稲束にしてお持ち下さい。

- 昼食 松茸ご飯、お吸い物ほか

～とくちゃんの農小レポート～

「雨にも負けず寒さにも負けず・・・」

待ちに待った農小キャンプは、二日間とも雨に歓迎されてしまいました。それでも元気な農小の子供たちは、しっかり雨ともども楽しみました。

授業の前に先月の続きの、案山子を32体完成させました。そして各自一票の人気投票をおこないました。投票の結果と、岐阜新聞記者及び先生、スタッフによる特別賞などは後日表彰されます。

- 1 午前の授業。 かぼちゃの収穫。今年は栗でもなく坊ちゃんでもなく、白いカボチャでしたがこれは保存の効く美味しいカボチャです。
ピーマンも収穫しましたが、農小料理に提供されました。
- 2 昼食。 川遊びが雨で危険なため中止となりましたので、お弁当を食べた後は夜の出し物の打ち合わせをグループ毎におこないました。
- 3 鱒つかみ。 翌日のボート用のプールにマスを放流し、1～3年生、4～6年生の二組に分かれての、鱒つかみ大会は大盛況でした。そのあとは鱒の腹出しに挑戦し、なかなか苦労しましたが、これも人間が生きるために生き物の命を頂いている、と云う事の理解を深めるための体験です。
- 4 持ち帰り。 今回はカボチャでしたが、校長、事務局長からの提供が沢山ありました。残念ながら今年はジャンボかぼちゃは有りませんでした。
- 5 夜店の開店。 17時には夫々グループ毎に工夫を凝らした、夜店が開店しました。特に例年のように人気は豚の丸焼きでしたが、どのグループの料理もたいへん美味しいものばかりでした。
- 6 夜のアトラクションは、19時前から研修所の中で始まりました。
 - * 影絵。 今年も3年続きで、影絵を上演しました。坂下影絵サークルの作品で、花咲き山と云うタイトルでした。
 - * うたごえびれっじ のコーラス。 懐かしい唱歌が中心でしたが、中でも腹話術人形のケンチャンは人気絶大でした。
 - * キャンドルサービス。 キャンプファイヤーの代わりに、間宮さん考案のキャンドルサービスが行われ、とても好評でした。
 - * グループ毎の出し物。 グループ長がまとめ役となって、それぞれのグループがクイズやナゾナゾなどの発表を行いました。
- 7 翌日の物づくり。
 - * 木工。 夫々のアイデア作品と、スクリュウボートが人気でした。
 - * 竹細工。 貯金箱や筆立て、竹トンボに菜箸、マイコップなど。
 - * 草履作り。 今年4人の先生を招いて布草履をつくりました。
 - * 絞り染め。 加藤緑先生に染料・道具をお世話してもらい、絞り染めに挑戦しました。

(作品展を行いますので大切に保管を！)

～あぼ兄の百姓ぼなし～「お米お米おこめえ頭がよくなるう」

「朝食をとる子、好成績 算数の正答率20ポイントも差」

8月30日の日本農業新聞の一面に大きな見出しが載った。文部科学省が前日に公表した小学6年生と中学3年生を対象に4月に行った全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で朝食を毎日食べる児童・生徒ほど正答率が高くなることが分かったという。

これを政府の「早寝早起き朝ごはん」運動の発起人である小児科医は「朝食の摂取は生活習慣がきちんとしていることの反映で、その結果だろう。血糖値や体のリズム、脳の活動を整えるなど生理的な要因もある。」と分析する。

このほかにも、夕食を家族と一緒に食べる児童・生徒ほど国語の正答率が高くなることも分かった。家族で食べれば美味しさも増す。農小でも皆一緒に食べるからよけいに美味しいのだろう。

そういえば何年か前のこと、皆が畑の授業中なのに一人台所ハウスをウロウロする子がいて、スタッフが声を掛けると、農小の昼食が美味しいので、沢山食べるために朝食をぬいてきたのでお腹がすいたのだと言ったことを思い出した。それはそれである意味嬉しい話だが、皆さんにはちゃんと朝ごはんを食べてほしい。

それと、動物の飼育や植物の栽培の経験のある小学生ほど国語の正答率が高く、学んだことを応用する力を問う問題では何度もした経験がある子と全くしたことのない子とでは大きな差があったという。

農小では、栽培についても詳細に解説や指導もできず、何気なく当たり前に行ってしまうことが多いが、それぞれに受け取ってもらって、いろんな体験になっていると思う。その中でも「バケツ稲」は手入れの仕方がそのまま結果につながるので、各家庭でさまざまな対話があったと思う。文集でも、「夏休みの旅行に出かけるに気がかりでお祖父さんに水遣りを頼んだ」とか、「気がついたら雀に食べられてしまっていた」など話題は多い。

そのバケツ稲は今や食育教材に定着し、教師の9割が手応えがあったと満足しているという。又バケツ稲作りを通して、児童に見られる変化として

①お米に興味関心が高まった

②食べものを大切にするようになった。

③米作りの大変さ、農家の苦労を知った。

④ごはんの食べ残しが少なくなった。などがあげられるという。お米に関心を持ってもらうことが農村を救い、日本の食糧問題を解決していくための第一歩となる。

先進国のはずの日本の食糧自給率の低さは別格だ。国家の危機と言ってもいい。自給率を1%上げるには、国民の皆がごはんを一食にもう一口食べることだという。さらに、全国民が一日に茶碗一杯余計にごはんを食べるとすると、生産調整で今米を作ることが出来ないでいる水田の約半分が稲を植えられるようになる。つまり、皆が一日に二杯(回)おかわりをすれば農家は全部の水田で稲作が出来るようになる。

椀の湖農小でやってきたこと、主張してきたことがやっと認められて、あぼ兄は岐阜県の和食文化推進委員と、食と農を考える県民会議の世話人になっている。

あぼ兄は言いたい。「朝ごはんをしっかり食べよう。」

「お米のごはんをおかわりして食べてほしい。」と